

いじめ対応充実の手引き⑨



長野県教育委員会事務局教学指導課心の支援室

いじめを見逃さない（いじめの早期発見の取組）

アンケート調査による実態の把握

長野県の小学校85.8%、中学校88.3%、高等学校57%の学校が、アンケート調査を行っています。また、いじめ発見のきっかけでは、「アンケート調査等学校の取組によって発見」が小中学校で約8%、高等学校で3%となっています（「平成23年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」より）。

「いじめに係る学校訪問」では、「学校生活アンケート」、「悩みごとアンケート」等の調査を学校全体で計画的に取組んでいる学校が多く見られました。

いじめ早期発見の一つの手段として、また、教師の児童生徒理解や児童生徒集団の状態の把握、潜在化しているいじめがどの程度あるのかを把握する補助として、アンケート調査を活用していきましょう。

アンケートの目的

被害者や加害者の発見を目的とするばかりでなく、学級や集団の中で、いじめがどの程度起きているのかを定期的に把握し、いじめが起きにくくなるような取組を意図的・計画的に行い、その取組の成果を評価し改善することを目的とすることがよいでしょう。



無記名式アンケート

- 「早期発見」に役立てようと「記名式アンケート」を行っても、いじめアンケートで得られる回答の多くは、過去（年度初めや夏休み明け以降などの一定期間）の経験の事例になることが多くなります。
- 現在進行中で、深刻な事例（深刻ないじめは、被害者がその事実を他人には言えない方法や内容で行われ、第三者に相談できないようなもの）であるほど、「記名式アンケート」には回答しづらくなります。アンケートで訴えてきた事例に対応していく姿勢では、そうした深刻な事例を見落としかねません。
- いじめアンケートを実施する目的は、過去の経験率を知ること、そして今後どの程度に起こりそうかを知ることです。「無記名式アンケート」をすることでより正確な回答が得られやすくなります。

アンケート実施の留意点

質問項目

すみやかに実施・集計できるように、学年・組・性別の他には、5～10項目程度で文章による記述を伴わない簡単なものがよいでしょう。

実施時期や回数

学年始めや長期休暇明けなど、子どもの人間関係に変化が訪れる時期や、学年末でクラス替えなどに不安を感じる頃が有効です。また、定期的に複数回実施することも効果的です。

※「いじめにかかわる学校訪問」では、毎月実施している小学校もありました。

実施時の環境

ふざけたりしないで正直に答えてほしいことを伝えます。また、回収後は児童生徒の目の前で封筒に入れるなどし、匿名性を守り、児童生徒から信頼を得られるように工夫しましょう。

実施後

教師が気づかない（潜在的な）いじめがどの程度に起きているのかを真摯に受け止め、必要に応じ、児童生徒全員と時間を決めて教育相談を行ったり、いじめが起きにくい学校や学年の雰囲気をつくる方策を考えたりすることが必要です。

もちろん、いじめやいじめに進行する可能性のある事象が把握できた場合には迅速に対応します。

※ 総合教育センター職員研修用資料をご活用ください。

「こどものSOSを『見逃さない』ために」～「アンケート」と「5分間ショート面接」を活用した「よりよい人間関係」の構築 ～ (http://www.edu-ctr.pref.nagano.lg.jp/kenkyu_chousa/project/seitoku/4_2.doc)

※ 国立教育政策研究所が発行している『生徒指導リーフシリーズ』の Leaf. 4『いじめアンケート』（<http://www.nier.go.jp/shido/leaf/leaf04.pdf>）を参考にしました。

昨年8～9月に行った「いじめに係る学校訪問」では次のようなアンケートの取組をお聞きしました。

- 年間に数回、あるいは状況に応じて「なかよしアンケート」、「いじめアンケート」を実施し、児童生徒理解のデータとして職員間で情報を共有したり、必要に応じて児童生徒と相談を行ったりしている。
- 毎月簡易アンケートを行い、短い期間の児童生徒の生活や心の変化をとらえてその要因を探ったり、面談を行ったりし、いじめの可能性を見つけたりしている。
- Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）を実施し、生徒一人ひとりの学校生活満足度や意欲、社会性について現状を把握し、学級経営や気になる児童生徒との面談に生かしている。

実施するアンケートの目的を明確にするとともに、実施してから現状を把握し、教育相談を行ったり、学級経営の改善の取組を行ったりすることが大切にされています。

